

DATE	DATE	DATE
------	------	------

© EPODOC / EPO

PN - JP61047801 A 19860308
TI - PRODUCTION OF HANDKERCHIEF
IC - A41B15/00 ; D03D15/00 ; D06H1/00
PA - SANKEI KK

25 (1)

© WPI / DERWENT

PN - JP61047801 A 19860308 DW198616 004pp
TI - Printed handkerchief prodn. - by interweaving coloured threads into raw cloth, printing on stand and cutting at marks
AB - J61047801 After obtaining raw cloth by interweaving colour or non-colour thread forming cutting marks for sheet of handkerchief, raw cloth is applied on printing stand. Continuous pattern printing crossing over cutting marks is made. After finishing process raw cloth is cut by cut marks.
- ADVANTAGE - Quality of printed handkerchief is remarkably improved without a big investment. (4pp)
ORD - 1986-03-08
IC - A41B15/00 ; D03D15/00 ; D06H1/00

Z. H. Hr. Fischer

DATE	DATE	DATE
------	------	------

THIS PAGE BLANK (USPTO)

①

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-47801

⑭ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和61年(1986)3月8日

A 41 B 15/00
D 03 D 15/00
D 06 H 1/00

7149-3B
6844-4L
7211-4L

審査請求 有 発明の数 1 (全4頁)

⑯ 発明の名称 ハンカチーフの製造方法

⑰ 特 願 昭59-169687

⑱ 出 願 昭59(1984)8月14日

⑲ 発 明 者 菊 仲 俊 美 芦屋市六麓荘町5-8

⑳ 出 願 人 三 恵 株 式 会 社 大阪市南区南船場2丁目6番17号

㉑ 代 理 人 弁理士 福島 三雄

明 細 書

る。

1. 発明の名称

ハンカチーフの製造方法

従来の技術

染色により色柄模様が現わされるハンカチーフ

2. 特許請求の範囲

平織原反生地中に、ハンカチーフ一枚について
の裁断マークを形成する色糸または不染色糸を織
込んで原反生地を得た後、該原反生地を染色台板
に貼着し、スクリーンプロセス染色型版により、
上記裁断マークの周縁にまたがる連続模様の染色
を施し、その仕上げ処理後、原反を前記カット
マークにより裁断することを特徴とするハンカチ
ーフの製造方法

生地は、一般的に平織生地が用いられる。平織生
地は、織布後の原反の巻取りの時点において巻取
りの力の働いた方に引張られ、繊維が平行に交叉
せず、引張られた方に伸びたままの状態となり、
正確な経糸の平行および之に対する緯糸の直角状
態は保たれていない。

また染色工程において、台板(プリント台)に
原反生地を貼り固定する際にも、生地の張り具合
で、やはり経糸と緯糸の方向に歪みが生ずる。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明はハンカチーフ製造の技術の分野に属す

一方染色は、普通パネル型版によりハンカチ
ーフ4枚あるいは6枚分を染色するもので、前記台
板に貼られた生地に上記パネル型版でプリントさ

れ、同時に裁断のためのカフトマーク（ライン状マーク）が捺印される。プリント後、脱糊水洗等の後処理を経て、上記カフトマークに沿って一枚一枚に裁断される。

発明が解決しようとする問題点

前述の方法で捺染される平織生地は、既述のように、製織時の巻取りやその後の生地処理、さらに捺染台板への貼り付け時の引張りにより、経糸および緯糸の方向が既に歪んだ状態の平面に、捺染のプリントと共にカフトマークを入れたものであるから、これに沿って裁断された一枚一枚は、生地の引張りによる伸びが生じた分だけ経糸および緯糸が斜行した平面のものに裁断される。

第3図における10は上記の経糸および緯糸が斜行した生地よりなるヘンカチーフの平面を示し

ことにより、製品上の不備のないものとしたことを特徴とする。

作 用

材料としての原反生地の経糸および緯糸中に異色または異種糸によつて現わされた裁断マークによつて、捺染および仕上げ後の原反生地から、生地目に斜行しない状態で、ヘンカチーフ一枚一枚の裁断を容易に行なうことができる。

捺染台板に貼り付けられた長尺の原反生地の裁断マークと、ヘンカチーフ2〜4枚分の捺染型版のピッチのずれにかかわらず、捺染模様のデザインの歪脱模様により、上記ピッチのずれが気付かれない品質のプリントヘンカチーフを提供することができる。

実 施 例

特開昭61-47801(2)

であり、裁断され縁縫されたヘンカチーフは方形であるが、経糸、緯糸の方向は斜行している。

問題点を解決するための手段

本発明によれば、平織原反の織成時に、一枚ずつの裁断マークを形成するように、経糸および緯糸中に色糸または不染色等の生地糸と異なる種類の糸を織込んでおくことにより、生地処理、捺染処理後の最終工程の裁断の時に、上記経糸および緯糸中の裁断マークに沿って裁断すべくし、前述のいわゆる斜行裁断の問題を解消する。

これと同時に、上述の裁断マークを施こされた生地を捺染台板に固定するまでに生ずる主として経方向の伸びによるカフトマークのピッチと、捺染型版の幅の不一致を、一枚のヘンカチーフの隣接領域で、遅脱模である縁模様のデザインにした

ヘンカチーフ用原反は、一例としてヘンカチーフ2枚あるいは3枚を並べた幅に端上げられる。本発明によれば、上記原反の織成時に、該原反から製造しようとするヘンカチーフの大きさに仕切る裁断マークが、平織生地の経糸および緯糸中に入れられた異質な糸によつて施こされる。

上記の異質糸とは、後に捺染によつて原反に表現される色彩と見分けることができる色糸が、その一例であり、他の例としては、捺染されても、その色に染まらない不染色糸であつたり、太さが生地糸と異なる糸である。要するに捺染工程後の最終工程の鉄その他の刃物による裁断に際し、カフトマークとして認識し得る表示性を発揮する特性を具えたフィラメントあるいは糸条であればよい。

特開昭61- 47801(3)

第1図はハンカチーフ製造用原反1の平面図で、2, 3はその原反の織成時に、織込まれた前記異質糸によるカフトマークを略示している。上記原反は、例えば20数メートルの染染台板に正しい平面および経糸、緯糸配置を保つ状態に貼り付けられ、シルクスクリーン染染型版4による染染が行われる。所定の色糊を層着する色毎のデザイン型版が、染染台板上の定規により保持され、原反の左端あるいは右端から、実施例の場合、ハンカチーフ4枚分を含む型版により、矢印の如く次の未染染部分に送られる。

本発明においては、上記染染のデザインを、前記裁断マーク2あるいは2, 3のそれぞれにまたがって施される連続する柄模様とするものである。第1図は柄模様5および6が原反生地

の場合を示したものである。第1図に示されるハンカチーフの方形に合せた方形パネル状のデザインの場合は、染染台板に固定する際の原反生地の経方向の伸びによつて、既に織込まれているカフトマークの原反の長さ方向の染染型版の幅に相当するビフチが、現実の染染型版の送りと若干喰い違ひ誤差を生ずる。もつとも、この誤差は僅かであるので、第1図における柄模様6の幅が得られたハンカチーフでは殆んど目立たない程度である。

これに対して、第2図に示される非方形の連続模様7の場合は、上述の誤差を生じない。しかしながら、染染模様のデザインは、第1図、第2図の例は勿論、その原理を利用した他の枠形、窓形、ストライプ形模様、その他の変形模様を任意に採択し得ることはいふまでもない。

前記カフトマーク2および緯方向カフトマーク3の両側にまたがったデザインの場合を示している。染染型版4における上記デザインの図における右側がブラインドとされているのは、左側の緯方向柄が、該染染型版4が次の未染染原反部分に送られて刷り込まれるためである。

このようにして原反の全面に所要色糊毎の刷りが行われた後、常法通り蒸煮し染色し所要の仕上げが行われても、前記カフトマークは染染模様中に判別し得る状態で存在する。従つてこのカフトマーク2, 3に沿つて裁断すれば、ハンカチーフの繰取以前の裁断品が得られ、この製品には生地の斜行は全く見られない。

第2図の染染型版4の染染デザインは原反の経方向のカフトマーク2の両側にまたがるデザイン

発明の効果

染染ハンカチーフは、無地、白地のハンカチーフに比べて需要が増大しており、本発明によれば、合理的、かつ多大の投資を要することなく、染染ハンカチーフの品質を格段に向上することができ

4. 図面の簡単な説明

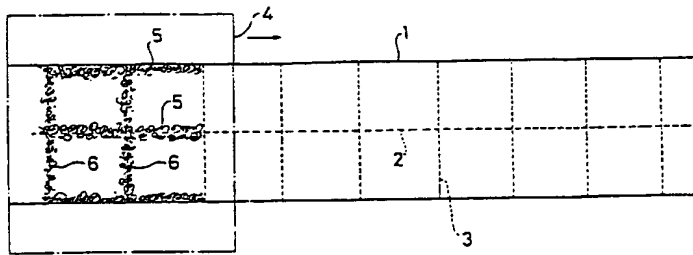
第1図、第2図は本発明の実施例を示すそれぞれ原反と染染型版の関係を示す平面図、第3図は従来の製品の平面図である。

1…原反、2, 3…カフトマーク、4…染染型版、5, 6, 7…染染デザイン

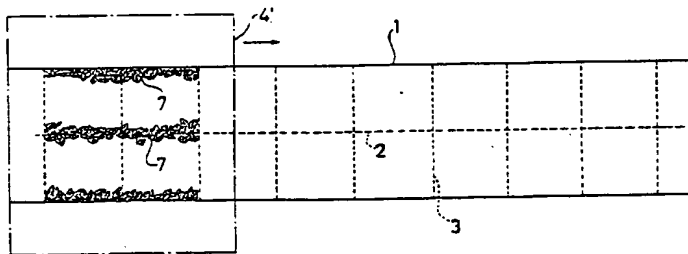
出願人 三 恵 株 式 会 社

代理人 五 歩 一 敬 治

第1図



第2図



第3図

